



ROTARY CLUB OF OSAKA JONAN

WEEKLY BULLETIN

創立 1969. 5. 30 会長 永井正美
幹事 西澤吉樹 会報委員長 村上武史

RI 2660地区
大阪城南ロータリークラブ

NO. 2181

2014-5-9

事務所 〒542-0012 大阪市中央区
谷町9丁目1番22号NK谷町ビル407号
TEL(06)6796-9898 FAX(06)6796-9899
http://www.osaka-johnan-rc.org/
E-mail:johnan25@crocus.ocn.ne.jp
例会場 シェラトン都ホテル大阪 上本町6-1-55
TEL (06)6773-1111
例会日 金曜日 12:30

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

2013-2014年度国際ロータリー会長 ロン D. パートン

本日の例会

5月9日(第2例会)

- 表彰・ホームクラブ連続皆出席
岡本(20) 渡邊(20) 山本(10)
藤野(40) 井上(10) 西澤(20)
濱田(10) 平瀬(20) 村上(武)(20)
岩永(60) 中尾(20)
小原(20) 米田(10)
各会員
- お祝・卒寿
西村会員
・誕生日
平瀬 北 村上(泰) 西村 西澤 上
渡邊
各会員
- ・結婚記念日
濱田 中尾 内藤 野中 尾崎(巖)
佐々木 遠田 上 小原
各会員
- ・入会記念日
今井 北 三木 光信 野中 大原
各会員
- ・会社創立記念日
今井 中尾 中谷(徹) 西村 渡邊
各会員
- 卓話 「こうして計る II」
今回は温度を中心にします。
杉原 茂会員
- 理事会 11:30~12:10
シェラトン都ホテル大阪 3階 クローク横

次週のお知らせ

5月16日(第3例会)

- 卓話 「自己紹介」
武田善博会員
- 次年度理事会 11:30~12:10
シェラトン都ホテル大阪 3階 クローク横
- 次年度クラブ協議会 13:40~15:20
シェラトン都ホテル大阪 3階 三笠の間
- 食膳 〈フランス 肉料理〉

次々週のお知らせ

5月23日(第4例会)

- 卓話 「日本の民事司法」
中本和洋会員

先週の記事

4月25日(第4例会)

●出席報告

出席会員 47名 (内免除会員 15名)
会員総数 52名 (同上 18名)
ゲスト 1名
ビジター 1名

計 49名

ホームクラブ出席率 92.17%

4月11日(第2例会)補正出席率 95.65%(MU 2名)

●ゲスト&ビジター(敬称略)

山本幸司(卓話者)
花村敏信(三鑽電器(株)社員)

◆会長の時間◆

4月の例会も今日が最後で私の役目柄もあと2ヵ月、しかし5月30日の45周年が控えていますので気が抜けません。昨日も親クラブである大阪東RCの例会に出席させて頂き、今日までのご支援ご指導が有ったればこそその45周年が迎えられるという御礼を申し上げて参りました。そして創立57年の歴史と会員数120人の大きさ、多さが醸し出す例会の魅力を感じました。

◆幹事報告◆

- 本日45周年記念式典(5月30日)の出欠表を回覧させていただいています。より多くの参加をお待ちしております。なお会費は会員2万円、家族1万円です。集合は15時ですのでよろしくお願ひ致します。
- 45周年実行委員会を5月16日、次年度クラブ協議会終了後に行いますので各委員の方はよろしくお願ひ致します。

◆委員会報告◆

①規定・情報委員会

委員長 山下健三

本日、2013年手続要覧をお配りしました。黄色いページは変更ありませんが、白いページの部分でいくつかの変更があります。あらましについては1月24日の会報第2168号に記載のとおりで、HPにも掲載しています。

会員増強にご協力を!!

<4つのテスト> 言行はこれに照らしてから

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

②新世代奉仕委員会

委員長 岩永建保

田島童園交流会のご案内をします。実施日は5月25日、先行はビッグバンで詳細は配布資料のとおりです。参加ご協力よろしくお願いします。

③親睦・出席委員会

委員長 尾崎 巖、米田昭正会員

4月27日、家族会ならびに春の職場見学会が行われます。出席はご家族、米山留学生を含めて90名の予定です。

④次年度幹事より報告

次年度幹事 中谷徹雄

次年度の事業計画書を5月9日までにメール等で提出をお願いします。

5月16日に第1回の次年度クラブ協議会を行います。正副委員長とも出席よろしくお願いします。

難行動が取れない人)の避難・救出、帰宅困難者(災害発生時に公共交通機関がサービスを停止したため、自宅に戻れなくなった人)へのサービス提供なども大きな課題となります。特に大阪駅周辺は鉄道路線が複合しており、商業施設も集中し、さらには広大な地下街が存在すること等から、早急な取り組みと周知徹底が必要です。

避難に関連する話題としまして、通常は公立の小・中・高校等が避難場所に指定されておりますが、もともとこれらは教育施設として整備された施設であるため絶対数が不足しており、災害時の避難生活には設備や機能が不十分と言わざるを得ませんし、当然ながらプライバシーも確保されません。ともあれ、震災時には避難場所に避難すべきか、自宅に留まるべきかを即断することは難しいといえます。なお、各家庭で非常食や飲料等を何日分確保しておくべきかについても、当初は3日分で十分と判断されていましたが、最近では1週間分、できれば10日分程度の備蓄が必要ではないかと言われております。

とはいえ、減災(実質的には防災は不可能と考えるべきであり、四川大地震の際には中国でも防災ではなく、減災と表現していました)のための様々な取り組みは、阪神・淡路大震災当時はもちろんのこと、東日本大震災当時と比較しても、かなり進んでいますので、心強い限りです。

防災計画の立案に関しては、どのようなシナリオのもとで被害内容を想定するのかが重要となりますが、この点に関しては一般市民の不安を過度に煽ることは慎むべきでしょうし、地震発生の季節・時刻だけではなく、天候や曜日(東日本大震災は金曜日の午後に発生したため、東京都中心部では週末を家族のもとで過ごしたい勤労者・旅行者等で大混乱した)も考慮しなければなりません。

備えあれば憂いなしとはいうものの、いくら立派な防災計画を策定していても、いざ大地震が発生した時に防災計画どおりに地元の自治体が緊急対応できるか、市民が落ち着いて迅速に避難行動できるかどうかは大いに疑問です。

南海トラフ大地震に向けては、国や自治体等による公助に期待することは当然ですが、自助・共助のシステムづくりが不可欠ではないでしょうか。

ご清聴有難うございました。

卓話

4月25日 <第4例会>

「阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ 大震災時の緊急対応」



名古屋工業大学名誉教授
山本幸司氏

本日は貴クラブの卓話講師としてお招き頂き、有難うございます。時間が限られていますので、準備してきましたパワーポイントのスライドすべてについて詳細に説明させて頂くことが

できないことをお許し下さい。

まず地震予知について触れたいと思います。地震予知とは、いつ(時刻)、どこで(震源)、どれくらい(マグニチュードおよび震度)で発生するかを、ある程度事前に、正確に把握することです。しかし、それは現在の高度な技術を用いても困難もしくは不可能であることを地震学会が認めてしまいました。したがって、南海トラフ大地震についても予知に期待するのではなく、地震が発生した際にどのように対応すべきかについて、もっと真剣に考える必要があるということになります。

また当然ではありますが、地震被害の内容は個々の地震によって異なります。地震で亡くなった方の死因についても、阪神・淡路大震災の場合は10%が焼死であったのに対して、東日本大震災では90%以上が水死であったと言われております。東日本大震災の特徴として、被災地が広範囲に及んだこと、想像をはるかに超えた津波が襲来したこと、原子力発電所が被災したこと、膨大なガレキが発生したこと等が挙げられますが、地震動そのものによる社会基盤施設の被害はさほど大きくありませんでした。それは、阪神・淡路大震災以降に設計強度が高められたことによると考えられます。

地震災害が発生した際にはトリアージ(効率的な医療活動のために、被災地で負傷者等の識別を行う行為)の導入、災害弱者(危険が差し迫ったことを察知する能力がないか、察知できても自分自身で適切な避

にこにこ箱

4月25日(第4例会)

- 本日の卓話に名古屋工業大学名誉教授山本幸司様をお迎えして卓話していただきます。昨年来、クラブで卓話していただくというお約束をようやく果たせました。

三木会員

- ほかにお詫び 2件

4月 ニコニコ合計 217,000円

(編集担当 濱田・村上)

会員増強にご協力を!!